



JR十条駅
連続立体
交差化計画

「高架案」に異論続出

都・北区・JRが都市計画案住民説明会ひらく

東京都と北区、JRは14・15日の両日、埼京線十条駅付近の連続立体交差化の都市計画案と補助85号線の都市計画変更案などについて、近隣の小学校体育館で住民説明会を開催しました。この中で、鉄道を高架化する計画に異論が続出、「地下化」を望む声が多数寄せられました。(のの山けん)



東京都が説明会で配付した事業パンフレット

十条駅付近の連続立体交差化計画は、「開かずの踏切」解消策として住民から待ち望まれていた事業でした。

付属街路整備で

120軒が立ち退き

ところが東京都が示してきたのは、仮線施工での高架化という案。この構造形式では、線路の東側に延長約1キロにわたる附属街路（北区が施工する側道）の整備が必要となり、これによって立

住民説明会で出された意見(一部)

- 高架に反対、地下化に賛成。構造形式は、ここで生きていかなければならない私たちのことを考えて決めてほしい。
- いままでずっと地下化とやってきたのに、なぜ急に高架になったのか。住民に相談もせず変えるのはおかしい。
- 「住めば北区」とか「長生きするなら北区が一番」といいながら、住民をまちから追い出そうとしている。心身ともにストレスを感じている。
- 高架部分は家屋にすれば5階建て、駅舎は6階建て相当となり、景観にも影響を与える。地下化なら何の問題もない。

ち退きを迫られる住民が約120軒にのぼります。**住民が求めてきたのは「地下化」方式**

説明会では、多くの住民を立ち退かせる高架化ではなく、地下化方式を求める意見が多く出されました(囲み参照)。

都側は、地下化(約655億円)よりも高架化(約340億円)の方が事業費が安いと説明し

ましたが、住民からの指摘で高架費用には住民への補償金(約100億円)が入っていないことが明らかになりました。

旧国鉄と北区で「地下化」の約束

日本共産党は都議会でも、旧国鉄と北区が地下化施工で合意していた事実を明らかにしました。都と区、JRは住民の声を真摯に受け止めるべきです。

東京都いいなり、住民軽視の 道路行政あらためよ

決算特別委員会での補助86号線をめぐる論戦から

区議会第3回定例会決算特別委員会で、住民の声を軽視し、東京都いいなりに都市計画道路を推し進める北区の姿勢があらわに。まちづくりは住民合意こそ大原則です。住民理解の得られない事業は、計画そのものを見直す必要があります。(のの山けん)

9月29日の決算委員会で私は、事業の必要性も明らかにしないまま土地や建物の提供を求める都側の説明に住民が激しく反発、事実上流会に追い込まれた赤羽南地区補助86号線用地説明会について区の見解を求めました。ところが出席していた区の理事者は、「説明会の趣旨にそった説明だった」、「他でもおこなわれて

いるものと同じ説明会だった」などと都を擁護する姿勢に終始しました。

道路計画反対の住民を「雑音」よばわり

この委員会では、公明党の委員の「道路計画がすめられている地域で、『住民の半分が道路計画に反対』などという声も聞こえるが本当か」という質問に担当

理事者が「志茂のことだと思われるが、反対派の吹聴だと思う」と答弁、公明委員が「やはり吹聴か。雑音には耳を貸さず、丁寧に進めてほしい」などと応じるやりとりがありました。

「吹聴」発言について、理事者が謝罪

これを受けて私が「住民のみなさんも私たちも、住民の半分といったことはないが、地権者の半数程度は計画に反対だと認識している。区職員による『反対派』、『吹聴』という発言は驚きだ。訂正するつもりはないのか」と指摘すると、担当理事者は「地権者の反対の数は承知していない。『吹聴』という言葉は不適切であり謝罪したい」と、発言を撤回しました。

北区外の個人・団体から提出された陳情

審査の対象から外す

—— 自民・公明・民主クが議決 ——

自民、公明、民進クラブは区議会第3回定例会で、北区外に住所を有する個人または団体から提出された陳情は審査しないとする会議規則の変更を議決しました。

日本共産党は9月23日の議会運営委員会で、「区外からの陳情を一律に審査しないと区別するのは、これまでの開かれた北区議会の対応から後退するもの」と批判、7日の最終本会議では4人の無会派議員とともに反対しました。



11日、赤羽駅東口で池内さおり衆院議員と早朝のごあいさつ。白紙領収書問題など臨時国会でも日本共産党議員団が論戦をリードしています。(のの山けん)